

---

---

# 教育総合センター

## だより

---

---

NO. 126

平成 24.12.1

### 「感性」

尼崎市立大庄北中学校

校長 井上 公哉



#### はじめに

先日、地域の交流文化祭で人権作文・ポスターの表彰式がありました。地域の3小学校、2中学校からたくさんの応募がありました。その中からです。

#### 1 子どもたちの作品から

キーワードを探してみました。

作文では圧倒的に「いじめ」です。他には「お年寄り」「外国の人」「病気の人」などです。一方ポスターは、「温もり・温かさ」「みんな」「笑顔」「つながり」が多かったです。

共通しているものでは「絆」「命」「人権」などです。テーマが人権ですから、ある程度キーワードは限られてはきますが、いずれも自分の気持ちをしっかりと表し、考えを発信しています。子どもたちは「命」「人」を大切に、「つながっていこう」と言っています。毎日の生活や学校でのやり取りの中から、何が温かいもの、温もりを感じとろうとしているようです。

小学校1年生から中学校3年生までの子どもたちの作文を読み、ポスターを見ると、子どもたちの「美しいもの」や「優しいもの」に感ずる心が伝わってきます。成長段階に合わせて、自分に合ったそれぞれの表現をとっているように思います。

ところが、現実はそのとばかりには言い切れないこともあります。心配な面も多々あります。「いじめ」はその最たるものです。

子どもたちにとっては、今、一番の関心

事であり身近な問題であるようです。

いずれにしても子どもたちは、日々、いろんな場面で何かを感じ発信しています。

#### 2 感ずることから学ぶことへ

「感性とは価値あるものに気づく感覚」と言う人がいます。だとすると子どもたちは、価値あるものにそれぞれ気づいています。それぞれがいろんなものに価値を見出しています。また、ある人は「感性とは感じて思う力」だと言います。子どもたちの人を大切に思う心、命を大切に思う心を私たちは、毎日の学校生活の中から十分に感じとっているはずで、それをもち続け、個性へとつないでいくためには、何が必要なのでしょう。子どもたちの感性が枯れてしまわないように、学ぶしかけづくりを考えるのが私たちの役割の一つです。

小林秀雄氏は「感性は学ぶもの」と言っています。子どもたちが自発的に体を動かして、思いを伝え合える場、しかけが必要です。ボランティア活動や体験学習は勿論ですが、それらは学校にこそ、たくさんあるのではないのでしょうか。

#### おわりに

子どもたちのこの「つぼみ」をより大きく豊かな花に育てるためには、まず、我々自身が感性を磨く必要があります。子どもに寄り添い、子どもの心を感じとろうと努める姿勢が何より大切なことだと、改めて感じた表彰式でした。

## 子どもたちが教えてくれた人権感覚

忘れられない子どもがいます。Nさんという女の子です。当時私は5年生を担任していました。そのクラスには、学年の中でもかなり支援が必要なS君がいました。周りの人とのコミュニケーションをとることが難しく、クラスの友だちも先生方もその対応に困ることがしばしばありました。私自身もどう付き合っていけばいいのか、またクラスの中に彼の居場所をどう作っていけばいいのか、試行錯誤しては失敗を繰り返す日々でした。

体育で縄跳びをしていた時です。いつもは跳び縄を振り回して遊んでいるS君が、顔を真っ赤にして汗びっしょりで縄跳びをしています。その日の体育は、グループ活動でS君とNさんが偶然同じグループで学習していました。こんなに一生懸命に取り組むS君は見たことがありません。いったい何があったのでしょうか。このチャンスを逃してはならない何か理由があるはずだ。S君のグループを観察することにしました。

「S君、おいしい」「でもさっきよりうまくなってで」「むっちゃ、がんばってるやんS君。」



Nさんが笑顔で声をかけ続けていたので、その明るく和やかな良い雰囲気

がグループ全体を包み込んでいます。普段はS君のことを「あいつ、うっとうしいねん」と言ってるY君も拍手しながら声を出していました。やっぱり笑顔です。

たったそれだけのことでした。私もS君の良い所を見つけて様々な場面で声をかけてきたつもりです。でもNさんを見ているとわかりまし

た。心が伝わってくるのです。言葉だけではなく、本当にそう思っているのがわかるのです。いわゆる言霊でしょうか。私の場合は声をかけること自体が目的になっていて、心がおざなりになっていました。自分でもそう思うぐらいですから、感受性の強いS君にとってはなおさらでしょう。その年度はNさんを中心にみんなが笑顔の学級づくりができました。

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ことが人権感覚ですので、Nさんは担任である私より人権感覚が豊かだったのは、間違いありません。

年度は違いますが、中国から来日したMさんの時のクラスも印象に残っています。Mさんは全く日本語を話せませんが、周りの子の様子を真似したり、泣きまねをした後笑ったり、茶目っ気たっぷりです。私自身は変に構えてしまい、Mさん係をつけようとしたぐらいですが、全くの取り越し苦労でした。日本語がわからないMさんがクラスの一員になるまで、さほど時間はかかりませんでした。

子どもたちはまたしても私以上に、Mさんを自分たちの仲間として自然に受け入れたのです。この時には、クラスの子ども一人一人の自尊感情が満たされ、結果として誰でも受け入れる人権感覚が形成されていたのでしょう。

もちろん、学級づくりが思うようにいかなかった時の方が多いのですが、最初から人権感覚を意識した学級づくり、学校づくりを考えていけば、また違った結果が出ていたことでしょう。

今は人権感覚を豊かにすることの大切さ、難しさを実感する日々です。

(人権教育担当係長 柳 一光)

## 算数・数学研究部会に参加して

私は、子どもたちの理数離れが言われる中、子どもたちが算数を楽しく学習するためにはどのようにすればよいかという思いで、昨年度から算数・数学研究部会に参加しています。

### 1 テーマ

本研究部会の研究テーマは、「小中連携を軸に算数的・数学的活動を考える」です。尼崎の子どもたちの学力を向上させるためにはどのようにしたらよいかということから、研究をスタートさせました。近年の全国学力学習状況調査から、特に算数については、技能定着はみられるものの計算の意味理解や知識を活用することに、課題が見られます。このことから、学力をつけるためには、「技能」のみに重点を置くのではなく、算数的活動を通して、「思考・判断・表現」に焦点を当てていく必要があるのではないかと考えました。

### 2 活用力～知識・技能を活用する力～

算数・数学が系統性のある科目であることから、「思考・判断・表現」を強化していくためには、各学年や小中での接続を円滑にしていくことが重要であることに気づきました。中学校の教員も研究員であることから、小中の接続にスポットを当て、中学校での学習内容を踏まえ、小学校の学習内容を考えることにしました。中学校卒業時につけておきたい力をゴールと考え、そこから遡って各学年でつけておかなければならない力を考え、授業をデザインしていきます。そのため、先の学年で学習する内容を意識して授業を進めることが必要になってきます。研究を進めるうちに教科書による内容の扱い方の違いが分かりました。教科書を見比べてみると、ある教科書では詳しく扱われていたり、ある教科書では発展として扱われ、あまり詳しく触られていないことがありました。例えば、2年

生の九九の学習で「倍概念の素地」を「赤×2＝青」というような形で指導することです。3年生になると自然に文章問題に登場し、高学年では、比例、中学校では、1次関数や2次関数の考えに直結します。2年生の段階でしっかりと素地を指導しておくことで次の学年での段差が低くなるのです。さらに調べていくと、発展で扱われているが、授業計画に入っていない内容がたくさんあることがわかりました。学年間で学習した内容のギャップを解消することが、小中のつながりを考えた時に非常に重要なことが分かりました。

今年度は、「図形領域」に絞って研究を進め



ています。「図形領域」は、小学校1年「三角と四角」からスタートし、中学校3年の「相似」までつなが

っています。中学校での学習内容「合同な図形」「作図」においては、例えばコンパスで円を描くだけでなく、等しい長さを測って作図できることがレディネスとして必要です。そのために算数的活動を取り入れた指導が重要になります。

### 3 目指すもの

現在、算数の学力は、中学校に進学する段階で既に大きく差が開いているのが現状です。その差を埋めるには、算数的活動を通して、活用する力を高めていくことが必要です。「学習したことから、問題の糸口をつかんでいく」これが算数・数学の本質です。つまり、獲得した力が次の学習のレディネスとなるのです。活用を中心にした授業展開を行い、積み上げていくことが学力差の解消につながると考えています。今後、今進めている研究が、子どもたちの学力向上の一助となれば幸いです。

(浜田小学校教諭 山岡 正明)

## 教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。(担当・幾田)

今回は、「いじめ」に関連した本をご紹介します。

\* 「いじめ」の根絶は難しくとも、「いじめ」に歯止めをかけることのできる社会を目指していかねばなりません。

- ・『いじめとは何か～教室の問題、社会の問題』 森田洋司著
- ・『夜回り先生 いじめを断つ』 水谷 修著
- ・『いじめ～予防と対応Q & A 73』 菅野 純・桂川泰典著
- ・『いじめの直し方』 内藤朝雄・荻上キチ著
- ・『いじめの14歳のMessage』 林 慧樹著
- ・『教室の悪魔～見えない「いじめ」を解決するために』 山脇由貴子著
- ・『いじめの連鎖を断つ～あなたもできる「いじめ防止プログラム」』 砂川真澄編著
- ・『Q & A子どものいじめ対策マニュアル～解決への法律相談』 三坂彰彦他編
- ・『「いじめ」の授業～道徳自作資料集』 大江浩光著

## 視聴覚ライブラリーからのお知らせ

新しくDVDを購入いたします。年度内に貸し出しの準備ができる予定です。

「柿山伏」(購入済)を入れて、本年度5本を揃えることができました。貸出期間は4日間で、一度に貸出できるのは4本までです。いつでも、ご相談ください。(担当・上玉利)

- ・「おむすびころりん」上映時間15分(幼～小学校中学年)

おじいさんが落としたおむすびは、穴の中の楽しいネズミの国へ。穴の中からきれいな歌声が聞こえます……

- ・「化けくらべ」原作 松谷みよ子 上映時間12分(幼～小学校中学年)

たぬきの「ごんべえ」ときつねの「へらこい」の化けくらべ。まんじゅうに化けたり、大名行列に化けたり……

- ・「ガキ対象行進曲」原作 塩沢 清 上映時間75分(小学校高学年向き)

弱い者いじめをするガキ大将の学級に転校してきた幸太。光男や義之と仲良しになるが、そんな幸太に、ガキ大将の弘は、数々のいやがらせを試みる……

- ・「ひとみ輝く時」上映時間32分(中・高校向き)

「いじめは命の問題です」あなたは加害者、被害者、それとも傍観者?それぞれの立場で話し合い、いじめ撲滅をめざす感動の教育映像。

